

株式会社福井

ポジティブインパクトファイナンス評価書

2024年3月29日



大垣共立銀行とOKB総研は、株式会社福井（以下、「同社」）に対してポジティブインパクトファイナンス（以下、「PIF」）を実施するにあたって、同社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブインパクト/ネガティブインパクト）を分析・評価した。

この分析・評価は、国連環境計画金融イニシアチブ（UNEP FI）が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド（モデル・フレームワーク）、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、大垣共立銀行とOKB総研が開発した評価体系に基づいている。

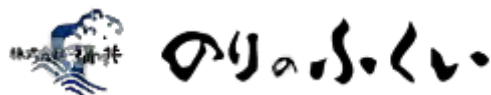
目次

1. 企業概要と経営理念、サステナビリティ.....	1
(1) 株式会社福井の企業概要.....	1
(2) 株式会社福井の事業概要.....	3
(3) 経営理念	7
(4) サステナビリティ	8
2. インパクトの特定	10
(1) バリューチェーン分析.....	10
(2) インパクトマッピング.....	10
(3) インパクトリーダーによるマッピング.....	11
(4) 特定したインパクト.....	13
(5) インパクトニーズの確認、大垣共立銀行との方向性の確認.....	16
3. インパクトの評価.....	19
4. モニタリング	22
(1) 株式会社福井におけるインパクトの管理体制	22
(2) 大垣共立銀行によるモニタリング	22

1. 企業概要と経営理念、サステナビリティ

(1) 株式会社福井の企業概要

企業名	株式会社福井
創業	1962年（同年4月に合資会社福井商店設立）
設立	1984年10月（株式会社福井設立）
代表者名	代表取締役 福井慶則
資本金	5,000万円
従業員	88人（2024年1月時点）
売上高	27億円（2023年9月期）
事業拠点	本社・工場 三重県桑名市安永 1560-1 和泉工場 三重県桑名市和泉 1250-1 郡上工場 岐阜県郡上市八幡町旭 1132-1
事業内容	海苔・青のり・あおさ・海老・昆布などのシーフードの製造・販売
関連会社	株式会社シーフツ福井（海産物仕入、不動産管理、持株会社機能） 株式会社百福（のり製品小売） 株式会社FFPI（フィルピン拠点）



<沿革>

1962年	桑名市常盤町に創業
1962年	合資会社福井商店設立
1965年	現在地に移転
1967年	郡上工場竣工
1984年	株式会社福井設立
1994年	株式会社シーフーズ福井設立
2003年	合資会社福井商店と合併
2005年	ISO9001 登録
2007年	本社事務所に工場直売店「磯音」開店
2008年	和泉工場竣工
2019年	フィリピンに株式会社 FFPI 設立
2020年	株式会社百福設立 「のりも」ブランド立ち上げ
2020年	FSSC22000（食品安全システム認証）登録
2021年	複合施設 VISON に「のりも」店舗出店



工場直売店「磯音」



「のりも」VISON 店

(2) 株式会社福井の事業概要

同社は、海苔を中心とした海産物の入札・仕入れから製造・販売まで自社にて一貫して行う。全国の商品産業を取引先とし、安心安全で高品質な製品を安定して供給している。

【取扱製品】

①海苔

全国から入札で買い付けた海苔を自社工場加工している。

仕入れた状態の「黒海苔（生）」から、一時乾燥を施した「黒海苔火入」、焼き加工をした「焼海苔」まで、幅広く取り扱っている。

また、切り加工・刻み加工においては、様々なサイズを用意している他、定型のもの以外にオーダーカットも取り扱っており、様々なサイズに加工することができる。

上記の他にも、板状に成形せず原藻を粗切りした状態のまま乾燥させた「ばらし海苔」も取り扱っている。



黒海苔（生）



焼海苔



刻み海苔



ばらし海苔（黒ばら）

②青のり粉・アオサ粉・青ばら（ヒトエグサ）

緑藻海藻を加工した製品。高価ではあるが、上品な風味が特徴であるスジアオリ、風味豊かなウバアオリの2品種を加工した青のり粉、青のり粉よりは安価で彩りがよいアオサ粉、磯の風味が強く、海苔佃煮の原料としても使用され、青さのりとも呼称される青ばら（ヒトエグサ）を取り扱う。



青のり粉



アオサ粉



青ばら

③干海老（素干海老・煮干海老）

干海老は海老の風味・旨味があり、海老味の製菓や加工食品に用いられる。干海老の代表的な桜海老から比較的安価なアキアミまで国内外産の数種類の干海老を取り扱う。粉碎加工、色染加工と顧客ニーズに合わせたオーダー加工をすることができる。



桜海老



干海老素干

④その他海産物・干物

取引先からの要望を契機に、北海道産のイカを薄くスライスした切りかスライスに加え、いか粉、たこ粉、昆布など、ニーズに合わせてさまざまなものを提供している。



刻みスルメ



刻み昆布

⑤小売

同社の販売先は主に製菓企業等の食品加工メーカーであり、B to B であるが、近年は小売りにも参入している。2007 年には本社内に自社製品を販売する直売所「磯音」を開店した他、2020 年には小売および EC 販売強化のため新会社である株式会社百福を立ち上げ、翌年には三重県多気町の商業リゾート施設「VISON」内に 1 号店を出店、オンラインショップも展開している。



「磯音」店内



のりも VISON 店

【同社の強み】

- ・海苔業界においては、多くの業者が御売業、加工業、販売業のいずれかの業務のみを担っているのに対し、同社はそれらを一貫してすべて取り扱っていることから、効率的な運営による低コスト・高品質を実現している。また、同社は一貫した体制を確立しているため、原料の仕入れや加工において顧客ニーズに柔軟に対応することが可能となっている。こうした体制の下で、同社は海苔の総合的な専門企業として高い業界内地位を確立している。
- ・取引先業種としては、米菓関連、外食関連、食品製造関連、商社関連、中食関連と多岐に亘っている。基本的には商社に依存しない販売網を全国に展開し、販売先を分散させることでリスク管理を行っている。

- ・様々なエリアからの仕入れルート有しており、海苔はもちろん様々な海産物を仕入れることができるため、幅広い顧客ニーズに応えられる体制が整っている。また、トレーサビリティにも注力しており、すべての商品において納品された段階でロット番号を付し、移動や加工の履歴の記録・管理を徹底している。そのため、製品から原料および原料から製品の特特定が可能であり、安心安全を心掛けた生産体制が確立されている。
- ・製品の選別や異物除去についても重視しており、高い精度を持って実施し、安心安全な製品提供を実現している。異物除去については、製造ラインに AI による異物検出機、金属検出機、X 線異物検出機の導入、色彩選別機、磁力選別機など様々な検査工程を入れていることに加え、人による目視確認作業を組み合わせることで、高い精度での選別体制が確立されている。



X 線異物検出機



検品ライン

【今後の展開】

- ・人口減少が続く国内において海苔の消費量が減少傾向にある中、同社では事業拡大のために海外進出を目指している。海外では海苔に馴染みのない国が大半だが、日本の海苔文化という付加価値により魅力を発信していくことで拡販を目指す。現在、社内に新たに海外事業部を設置し、販売先を開拓している。
- ・加工工場の大半は桑名市に集中しており、地理的リスク管理のため、加工工場の分散を検討している。なお、販売先については日本全国に分散している。
- ・上記工場の移転・拡大に合わせ、製造工程の自動化を進めている。また、工場のみならず業務の自動化、省人化を進め、効率的な業務運営と高付加価値商品開発などへの経営資源の集中を目指す。
- ・原料の仕入れも、不安定な自然環境や地球温暖化などに影響されるため、分散化するよう努めている。国内の産地だけでなく、海外の産地からの仕入れも拡大している。現在、中国、韓国、ベトナム、フィリピンから商社経由および自前で仕入れている。フィリピンでは子会社を設立し、フィリピン国内で仕入れた素材を加工して、輸出している。フィリピンから特定の海老を輸出するライセンスを持っており、ライセンスを保有しているのはフィリピンにあるすべての企業で 2 社しかなく、同社はその中の 1 社。今後、別の国に海外拠点を置くことも検討している。
- ・小売販売を強化するため株式会社百福を立ち上げた。同社が 50%を出資するが、その他に社員 3 人が出資しており、社内ベンチャーのような事業会社である。今後、小売および EC 販売の新商品開発にも力を入れていく。
- ・ESG 経営に取り組み、サステナビリティに関する評価機関である EcoVadis（エコバディス）の「ブロンズ」評価を獲得することを目指す。

(3) 経営理念

同社は以下の理念を掲げて、事業活動に取り組んでいる。

【Mission】

海から幸せを届ける

【Vision】

海の恵みの価値を広げる

<ul style="list-style-type: none"> ・海洋性食品の価値を広く伝える 低脂質、高蛋白質、グルテンフリー ・食べ方を創造する 海苔バーガー、海苔タコス 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べることを幸せに繋げる おいしいことの幸せ、健康であることの幸せ ・食を超えた価値を提供する 藻類による CO2 吸収、カーボンニュートラルへの貢献
--	---

海と食べるをつなげる

- ・海の豊かさを損なわない採り方を応援
- ・漁師さんの苦勞を伝える
- ・働き甲斐・生き甲斐のある会社である
- ・ジョブを考えた製品を提供する
- ・蛋白質・ヨード・食糧不足、健康改善に貢献する

海の多様性にとりくむ

- ・海の「今」を伝える
- ・海の「明日」に取り組む

【Value】

5 Be's

<ul style="list-style-type: none"> ・Be unique ・Be yourself ・Be curious ・Be a seeker of “jobs(to be done)” ・Be a data analysis specialist 	<ul style="list-style-type: none"> ユニークであろう 自分らしさを損なわない 広く興味を持つ ジョブの探究者たれ データを使いこなそう
---	---

事業を行うことで、魅力的な製品を届けることはもちろん、海苔という文化を保存・発信していくことを重視している。関連会社である株式会社百福では以下のような理念を掲げ、同社とともに海苔文化を大切にしている。

百福【Mission】

百年先にのりをつなげる

百福【Vision】

のりの世界をひろげる

これらの理念やそれに基づいた事業活動を浸透させるため、社員向けの説明会を行っている。理念全体についてはもちろんのこと、事業計画の進捗状況報告や新年度の目標などの形で、具体的なイメージのつくように取り組んでいる。

(4) サステナビリティ

①製品・サービス

- ・ISO9001 や FSSC22000 などの食品の品質管理や衛生管理に関するマネジメントシステムにかかる認証を取得しており、また、HACCP に沿った衛生管理に取り組んでおり、安心安全な製品の提供体制を確立している。なお、FSSC22000 の取得後、月 1 回程度の頻度で部署ごとに勉強会を社員向けに行い、定着を図っている。
- ・また、安全衛生委員会や品質管理課を設置し、事業概要記載の通り、製品のトレーサビリティや異物除去による安全性確保などに特に注力している。
- ・また、海苔は日本食の普及とともに海外にも広がっており、製品供給と共に、国内外での食文化としての海苔の普及も目指している。
- ・海外からの原料輸入においては、原料の採集や生産の現場において児童労働が行われていないこと、資源枯渇を防ぐための配慮がなされていることなどを確認し、サステナビリティの観点から問題のない輸入先を選定するようにしている。

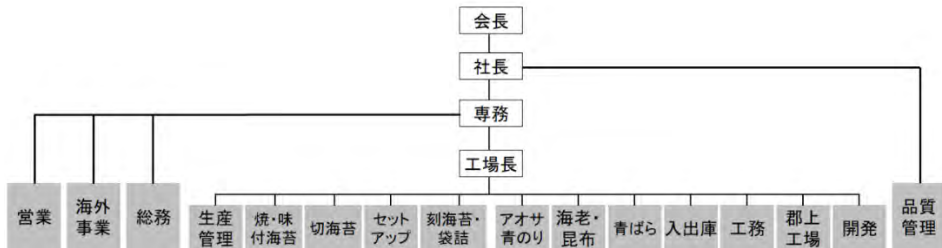
②環境

- ・製造過程でどうしても出てしまう食品ロスについて、食品廃棄物としての廃棄から堆肥化に切り替えている。現在、年間 8t 程度の食品を堆肥化しており、循環型社会に貢献している。
- ・今後、温室効果ガスの排出量測定および開示を行っていく予定であり、排出量削減方針を定めていく。
- ・地球温暖化をはじめ、自然環境の変化によって海苔の生産は大きな影響を受けており、生産者とコミュニケーションを重ねて、今後も安定的に海苔が生産されるような取り組みを考えていく。
- ・現状では紙の書類が多いがペーパーレス化を進めていく。今後、旅費精算や注文書などを電子化していく。電子化を進める際には、セキュリティ面などの強化も合わせて進める必要がある。

③雇用

- ・働き方改革を推進しており、年間休日を 99 日から 120 日に拡大、勤怠管理システムを導入、残業時間の削減も進め、健全な労働環境の整備を行っている。
- ・フィリピンやベトナム、インドネシアからの技能実習生等、外国人を 20 名程度雇用しており、うち外国人正社員も 3 人いる。社内でダイバーシティが進んでいる。さらに、外国人社員は宗教上の休暇を取ることのできる制度があり、多様性が尊重されている。
- ・様々な観点や視点から仕事を進めていくことが重要であると同社社長は自身の経験から認識しており、多様な人材が働きがいを感じる職場環境とすることに力を入れている。株式会社百福を社員 3 人と一緒に立ち上げたのもその一環である。
- ・また、女性社員が活躍できる職場を目指しており、現在、社員の男女比は 1:2 と女性の割合が高い。部長職は社内で 1 人のみで、女性。主任は 9 人中 5 人が女性。
- ・社員教育においては、これまで OJT 中心であったが、外部のセミナー受講などを積極的に取り入れ、社員の成長を促していく。外部の人材教育会社などとともに、研修プログラムを開発したり、研修資料を作成したりしている。

【組織図】



④地域貢献

・同社では、社会学習の一環として、小学生の会社見学や、中学生・高校生の職場実習の受け入れを行っており、持続可能な消費と生産のパターンに関する啓蒙活動に取り組んでいる。



会社見学の様子



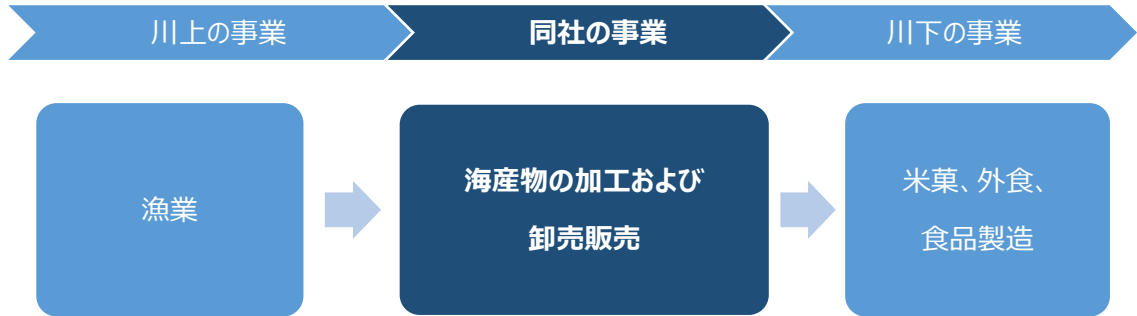
職場実習の様子

・その他、桑名海苔問屋組合の所属企業として、食育のため幼稚園、小中学校へ海苔の配布を 40 年以上行っている。

2. インパクトの特定

(1) バリューチェーン分析

- 同社の主力事業は、海苔をはじめとする海産物の加工、卸売および小売業である。同社及び関連会社は、全国各地より買い付けた海苔の他、海藻や海老などを様々な用途に合わせて加工し、米菓や外食、食品製造関連業者他、近年では一般消費者向けにも販売を行っている。
- 同社のバリューチェーンは以下の通りである。



(2) インパクトマッピング

- 大垣共立銀行は、先述のバリューチェーン分析の結果をもとに、インパクトマッピングを実施する。
- 同社の主要な事業として「魚類等の加工・保存業（1020）」「専門店による食料品小売業（4721）」を、川上の事業として「海洋漁業（0311）」「海洋養殖業（0321）」を、川下の事業として「果実及び野菜加工・保存業（1030）」「調理食品製造業（1075）」を取り上げる。
- 以上の事業について、UNEP FIが提供するインパクトレーダーを用いて「ポジティブインパクト（以下 PI）」と「ネガティブインパクト（以下 NI）」を想定する。

(3) インパクトレーダーによるマッピング

バリューチェーン	川上の事業				同社の事業				川下の事業			
	海洋漁業 (0311)		海洋養殖業 (0321)		魚類等の加工・保存業 (1020)		専門店による食料品小売業 (4721)		果実及び野菜加工・保存業 (1030)		調理食品製造業 (1075)	
業種	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative
インパクト												
水												
食料	●●		●●		●●		●		●●		●	
住居												
健康・衛生	●		●	●	●	●●			●	●●		●●
教育												
雇用	●●	●	●●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
エネルギー												
移動手段												
情報												
文化・伝統					●		●●		●		●	
人格と人の安全保障												
正義												
強固な制度・平和・安定												
水（質）		●		●		●				●		●
大気												
土壌												
生物多様性と生態系サービス		●●		●								
資源効率・安全性		●		●		●				●		●
気候		●				●				●		●
廃棄物		●		●		●●		●		●●		●●
包括的で健全な経済	●		●		●		●		●		●	
経済収束	●		●									

発現したインパクトについて、川上・同社・川下の事業について、カテゴリ毎の対応する SDGs ターゲットを整理する。マッピング上での示唆はないが、同社の事業に関連するカテゴリとして「教育」も分析対象とする。

尚、川上及び川下の事業にて発現したインパクトは、同社の事業におけるインパクトとほぼ重複しており、同社の事業におけるインパクトにて包含されているものと判断でき得ることから、川上及び川下の事業における SDGs ターゲットの整理はしない。

同社の事業

(i) 「食料」「健康・衛生」

- 海苔はビタミン・ミネラルなど多くの栄養素や食物繊維を含んでおり、同社が手掛ける海産物加工食品は、人々の健康的な食生活を支えており、PI 拡大に寄与している。
- また、製造現場の衛生管理他、製品内の異物除去などについては各種検査機器に加えて目視確認を行うなど徹底しており、管理体制に万全を期すことで安全な食生活の提供することがNI 縮小に寄与している。
- SDGs では、「2.1：すべての人々が安全かつ栄養のある食品を十分得られるようにする」のターゲットに該当すると考えられる。

(ii) 「教育」「雇用」

- 同社は、働き方改革を意識した年間休日の取得拡大や残業時間の削減による健全な労働環境の整備を行うなど、PI 拡大および NI 縮小に寄与している。
- また、女性社員が活躍できる職場を目指す他、技能実習生等の外国人の雇用や教育を積極的に行うなど、ダイバーシティを推進しており、PI 拡大に寄与している。
- SDGs では、「4.5：あらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする」「5.5：女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する」「8.5：すべての男性及び女性の生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事に従事する」「10.2：すべての人々の能力強化及び社会的、経済的な包含を促進する」のターゲットに該当すると考えられる。

(iii) 「文化・伝統」「包括的で健全な経済」

- 同社は日本固有の海苔文化を海外へ発信すべく、海外販路の拡大に注力する他、小学生の会社見学や関連会社を通じた商業リゾート施設への出店を通じて文化の継承、更には海洋保護に関する情報発信に取り組んでおり、PI 拡大に寄与している。
- また、米菓業界をはじめとする食品関連事業者に対する同社取扱製品の供給を通じて、同事業者による消費者ニーズに沿った商品開発及び生産活動が行われており、PI 拡大に寄与している。
- SDGs では、「9.2：包括的かつ持続可能な産業化を促進する」「14.2：持続的な管理と保護を行い、健全で生産的な海洋を実現する」のターゲットに該当すると考えられる。

(iv) 「気候」「資源効率・安全性」

- 製品加工および梱包工程において使用する機器について省エネ化を実現すべく、新型機器への入替を順次行っており、NI 縮小に寄与している。
- SDGs では、「13.1：気候関連災害に対する強靱性及び適応の能力を強化する」のターゲットに該当すると考えられる。

(v) 「廃棄物」

- 同社は、製品加工において生じる端材食品についても可能な限り製品化を図り、廃棄物を削減する他、

やむなく発生する最終廃棄物については堆肥化し、新たな食料品の栽培などへ有効活用しており、NI 縮小に寄与している。

- SDGs では、「12.5：廃棄物の発生防止、削減、再利用等により、廃棄物の発生を大幅に削減する」のターゲットに該当すると考えられる。

(vi) 評価対象外のカテゴリ

- 「水（質）」発現したインパクトは、同社の事業とは直接関係ないため評価対象外とした。

(4) 特定したインパクト

以上を踏まえて、同社のインパクトをESG（環境・社会・ガバナンス）毎に特定した。



環境（Environment）

環境配慮経営の推進

- 同社は、製品加工過程において発生する最終的な食品廃棄物については堆肥化し、新たな食料品の栽培に活用している。
- また、海産物を取り扱う事業者として、漁業者等から海洋の実態に関する情報収集を積極的に行い、海洋保護に資する講演活動や啓蒙活動を行っており、この活動は今後も継続的に実施していく方針である。
- 更に、社内資料の電子化を図りペーパーレスを全社的に進める方針である。
- このインパクトは「廃棄物」のカテゴリに該当し、環境面の NI を縮小すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
「12.5：廃棄物の発生防止、削減、再利用等により、廃棄物の発生を大幅に削減する」
「14.2：持続的な管理と保護を行い、健全で生産的な海洋を実現する」

温室効果ガス排出量削減の推進

- 同社は従来の省エネ化を目的とした機械設備の順次入替を継続していくと共に、2024年度より温室効果ガス排出量の測定開始を本格的に実施する予定である。
- このインパクトは「気候」のカテゴリに該当し、環境面の NI を縮小すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
「13.1：気候関連災害に対する強靱性及び適応の能力を強化する」

社会（Social）

日本食文化の魅力発信及び新分野への展開

- 同社は仕入れから販売までを一貫対応することで効率運営を実現し、低コストで製品を供給する他、食品関連事業者からの品質要求にも十分対応出来る体制を構築しており、同事業者からも高い評価を得ている。
- 海苔や海藻等の出荷量は減少傾向にある中、同社は日本国内での海苔に関する文化や魅力を伝える活動の一環として、BtoC向けの小売業を展開する他、学生を対象とした社会見学やインターンシップ、職場体験の機会を提供している。
- 同社の販売先は9割以上が食品分野向けである中、新たな海苔の活用や加工技術の転用など、イノベーションを目的とした他業種コミュニケーションやビジネスマッチングを積極的に行っていく方針である。
- また、昨今ではインバウンドによる「おにぎり」をはじめとする日本食が改めて注目を浴びる中、海苔を通じて日本の食文化を世界各地に発信すべく、海外事業部を立ち上げて販路拡大に取り組んでいる。
- このインパクトは「食料」「健康・衛生」「文化・伝統」「包括的で健全な経済」のカテゴリに該当し、経済面の PI を拡大、及び社会面の PI を拡大すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
「2.1：すべての人々が安全かつ栄養のある食品を十分得られるようにする」

「9.2：包摂的かつ持続可能な産業化を促進する」

働きやすい職場環境の整備

- 同社はすべての従業員を対象にワークライフバランスの定着を図るべく、会社休日の見直しを行い、今後は健康経営優良法人認定の取得も視野に入れた、従業員の健康にも十分配慮した運営を展開する予定である。一方で、限られた労働時間で高いパフォーマンスを確保すべく業務効率化を推進し、労働生産性を向上させる。
- このインパクトは「雇用」のカテゴリに該当し、社会面の NI を縮小すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

「8.5：すべての男性及び女性の生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事に従事する」

多様な人材活用と活躍機会の創出及び人材の育成

- 同社に勤務する従業員の内、男性 1：女性 2 で構成され、主任以上の管理職が 6 名在籍しており、女性の活躍機会を創出している。
- また、外国籍の雇用や教育を積極的に行っており、雇用形態については技能実習生に限らず正社員としても採用している。
- なお、同社の関連会社である株式会社百福については、従事する社員が一部出資して設立した企業であり、同社は社員に対する新たな挑戦の機会を提供し、それを支援している。
- 人材育成については OJT や、外部機関より講師を招いた勉強会を実施する他、製造現場における 5S 活動については教育プログラムを構築の上、定着化を図っている。
- 今後リスキンングを会社の制度として構築をし、就業後の社員の自主的な成長の支援を促すことを検討している。
- このインパクトは「教育」「雇用」のカテゴリに該当し、社会面の PI を拡大すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

「4.5：あらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする」

「5.5：女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する」

「8.3：雇用創出、起業、創造性及びイノベーションを支援する政策を促進する」

「10.2：すべての人々の能力強化及び社会的、経済的な包含を促進する」

企業統治（Governance）

ガバナンス機能の発揮

- 同社は FSSC22000 を取得し、衛生・製造管理及び外注管理など、食品取扱事業者として徹底した品質管理に注力している。
- 近年、消費者による「食」に対する安全性への要求は高まる中、管理体制の刷新に対する取り組みについて重視する傍ら、社会的責務を果たす為の社内体制の構築についても同等に重視すべきと捉え、コンプライアンス遵守や風通しの良い会社環境の整備を引き続き行っていく方針である。

- このインパクトは「雇用」のカテゴリに該当し、企業統治面のPIを拡大すると考えられる。
- SDGsでは、以下のターゲットに該当すると考えられる。
「8.8：労働者の権利を保護し、安全・安心に働けるようにする」

(5) インパクトニーズの確認、大垣共立銀行との方向性の確認

①国内におけるインパクトニーズ

- 国内における「SDGs インデックス&ダッシュボード」を参照し、国内のインパクトニーズと同社のインパクトを確認する。
- 上記工程を経て特定した、同社のインパクトに対するSDGsは、「2.飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現する」「5.ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」「8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する」「9.強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る」「10.各国内及び各国間の不平等を是正する」「12.持続可能な生産消費形態を確保する」「13.気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」「14.持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」に対して、国内におけるSDGsダッシュボードでは、「5、12、13、14」において、大きな課題が残る、「2、8、10」において、課題が残るまたは重要な課題が残っており、国内のインパクトニーズと同社のインパクトが一定の関係性があることを確認した。



②三重県におけるインパクトニーズ

- 同社は、全国に販売網を有している中、生産拠点が三重県であることから、三重県における「SDGs 未来都市計画」を参照し、三重県におけるSDGs達成に向けての課題を確認した。

三重県 SDGs 未来都市計画 –SDGs の推進に資する取組（抜粋）–

○環境に配慮した持続可能な経済活動

- 県内中小企業・小規模企業が抱えている人手不足解消・生産性向上といった社会的課題に対応するため、県内ものづくり企業と連携を図りつつ、県内ものづくり企業の生産性向上並びに事業拡大、新規雇用の創出、職場への定着を促進する。

○誰もが参画・活躍する環境に配慮した社会づくり

- 環境と経済が両立する持続可能な循環型社会の構築に向けて、県内事業者の自主的な環境経営の取組を促進し、温室効果ガスの排出削減を図る。
- 県全域の海岸漂着物対策については、海岸管理者、民間団体、企業等による協力体制の構築と、流域圏の自治体との連携により、発生抑制対策を含めた環境保全活動を推進する。
- 産業廃棄物の発生・排出が極力抑制され、排出された産業廃棄物が資源として最大限有効活用されるよう、廃棄物を排出する事業者と活用する事業者をつなぐ取組の推進や排出事業者等の 3 R の取組を進める。

③海外におけるインパクトニーズ

- 同社は、フィリピンにて現地法人を設立し、同国を中心に製品加工及び販売等、海外展開を行っている。
- 今般、フィリピンにおける「SDGs インデックス & ダッシュボード」を参照し、同国のインパクトニーズと同社のインパクトを確認する。
- 同社のインパクトに対する SDGs に対して、同国における SDGs ダッシュボードでは、「8、10、14」において、大きな課題が残る、「2、5、9」において、課題が残るまたは重要な課題が残っており、同国のインパクトニーズと同社のインパクトが一定の関係性があることを確認した。



③大垣共立銀行が認識する社会課題との整合性

- 大垣共立銀行は、「サステナビリティ基本方針」において「地域経済の持続的成長」「地域のイノベーション支援」「多様な人材の活躍推進」「気候変動対応、環境保全」「地域資源の活用」「コーポレートガバナンスの高度化」の6つを重点課題（マテリアリティ）としている。
- 同社の特定したインパクトは以下の通り、大垣共立銀行の重要課題（マテリアリティ）と方向性が一致する。



同社の特定したインパクト	大垣共立銀行の重要課題 (マテリアリティ)
環境配慮経営の推進 温室効果ガス排出量削減の推進	気候変動対応、環境保全
日本食文化の魅力発信及び新分野への展開	地域経済の持続的成長
働きやすい職場環境の整備 多様な人材活用と活躍機会の創出及び人材の育成 ガバナンス機能の発揮	多様な人材の活躍推進

以上のように、大垣共立銀行は本件の取組みが、SDGs の達成および貢献に向けた資金需要と資金供給とのギャップを埋めることにつながることを目指している。

3. インパクトの評価

ここでは、特定したインパクトの発現状況を今後も測定可能なものにするため、PI の拡大、NI の緩和・管理が適切になされるかを評価し、特定したインパクトに対し、それぞれに KPI を設定する。

環境配慮経営の推進および温室効果ガス排出量削減の推進

項目	内容
インパクトの種類	環境的側面において NI を縮小
カテゴリ	「廃棄物」「気候」
関連する SDGs	 
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・カーボンニュートラルに向けた具体的な取組みを加速していくことで脱炭素社会に貢献していく ・廃棄物量の削減に努めるとともに再利用化をすすめることで環境負荷軽減を推進していく
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・2025 年 9 月までに自社の温室効果ガス排出量の算定を開始し、削減目標の設定、また削減行動を進めていく ・2024 年 9 月までに紙使用量の把握を行い、以降、削減目標を設定してペーパーレス化を推進する ・2030 年 9 月までに社用車の 9 割以上を EV・HV 車に切り替える（現状 16%）

日本食文化の魅力発信及び新分野への展開

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面において PI を拡大 経済的側面において PI を拡大
カテゴリ	「食料」「健康・衛生」「文化・伝統」「包括的で健全な経済」
関連する SDGs	 
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・海外向けの販路拡大を行い、日本の食文化を世界各地に発信する ・海苔の活用や加工技術の転用し、新商品の開発や販路拡大など新たな分野への挑戦していく ・SNS の活用など新たなメディア戦略を実施し、海苔の文化を広げるとともに B to C の販売強化に努める ・海苔の収穫量の減少など海産物の実態を発信していくことで海の保護に努めていく
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・2030 年 9 月までに海外向け売上高 3 億円を達成する (2023 年 9 月期海外向け売上高 0.1 億円) ・海産物について情報発信し、他業種との積極的なマッチングなどを行うことで、新分野・異業種参入を展開する ・メディア戦略を強化し、2030 年 9 月までに小売、EC 部門にて国内での売上高 3 億円を達成する (2023 年 9 月期小売部門売上高 1.8 億円) ・海産物やそれに関わる実態、およびブルーカーボンの取り組みなどに関する外部への講演活動や発信など啓蒙活動を進めていく ・2028 年 9 月までに FSSC22000 (食品安全システム認証) に基づく品質保証課を発足し、社内の品質管理体制およびコンプライアンス体制を強化する

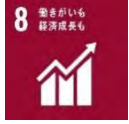
働きやすい職場環境の整備

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面において PI を拡大
カテゴリ	「雇用」
関連する SDGs	
内容・対応方針	・社員の生産性向上およびモチベーションアップのためワーク・ライフ・バランスの充実に 向けた職場環境整備の強化
KPI	・健康経営優良法人認定を 2025 年 3 月までに取得し、以降毎年取得する。

多様な人材活用と活躍機会の創出および人材の育成

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面において PI を拡大
カテゴリ	「教育」「雇用」
関連する SDGs	  
内容・対応方針	・事業継続のための経営基盤の強化 ・ダイバーシティ経営推進による誰もが働きやすい環境整備の実施 ・研修制度の充実など従業員レベルの向上を図ることで会社全体のレベル向上に努 めていく
KPI	・外国人雇用率について現在の 26%以上を維持する ・社員の能力向上やモチベーションアップに向け、2027 年 9 月までに人事評価体制 を構築する ・2028 年 9 月までにリスキングに対する補助体制を構築する (体制構築後の目標は改めて設定する)

ガバナンス機能の発揮

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面において NI を縮小
カテゴリ	「雇用」
関連する SDGs	
内容・対応方針	・グループ会社や新たな挑戦に向けた部署などを積極的に設置していくことと併行し、社内ガバナンス機能の充実を図っていく
KPI	・2025 年 9 月までに BCP を策定し、社内マニュアルの作成、社内研修を実施する

4. モニタリング

(1) 株式会社福井におけるインパクトの管理体制

- ・ 同社では、全社員で、本 PIF におけるインパクトの特定並びに KPI の策定を行った。
- ・ 今後については、福井社長を統括責任者とし、SDGs 推進委員会を中心に SDGs の推進、並びに、本 PIF で策定した KPI の管理を行っていく方針である。

(2) 大垣共立銀行によるモニタリング

- ・ 本 PIF で設定した KPI および進捗状況については、同社と大垣共立銀行の担当者が定期的な場を設けて情報共有する。少なくとも年に 1 回実施するほか、日々の情報交換や営業活動を通じて実施する。

【留意事項】

1. 本評価書の内容は、大垣共立銀行と OKB 総研が現時点で入手可能な公開情報、同社から提供された情報や同社へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、将来における実現可能性、ポジティブな成果等を保証するものではありません。
2. 大垣共立銀行、および OKB 総研が本評価に際して用いた情報は、大垣共立銀行および OKB 総研がその裁量により信頼できると判断したものであるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、および特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証をするものではありません。
3. 本評価書に関する一切の権利は OKB 総研に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳及び翻案等を含みます）、または使用する目的で保管することは禁止されています。